


## 安全データシート

<b>1. 化学品及び会社情報</b>	
化学品の名称	Decanoic Acid <Capric Acid>
コンポーネント名	
商品コード	SRL社 商品コード:D-26
供給者の会社名称	フナコシ株式会社
住所	東京都文京区本郷2-9-7
担当部門	コンプライアンス管理部
電話番号	03-5684-5107
FAX番号	03-5802-5218
推奨用途及び使用上の制限	研究用試薬
整理番号	OTH0262V01 (2022/2/14)
<b>2. 危険有害性の要約(以下、SDSは単一物質としての評価に基づき作成)</b>	
化学品のGHS分類	
健康有害性	皮膚腐食性/刺激性 区分2 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分1
環境有害性	水生環境有害性 短期(急性) 区分3 水生環境有害性 長期(慢性) 区分3 上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。
GHSラベル要素 絵表示	
注意喚起語	危険
危険有害性情報	H315 皮膚刺激 H318 重篤な眼の損傷 H412 長期継続的影響によって水生生物に有害
注意書き	
安全対策	取扱い後は眼や手をよく洗うこと。(P264) 環境への放出を避けること。(P273) 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280)
応急措置	皮膚に付着した場合、多量の水で洗うこと。(P302+P352) 眼に入った場合、直ちに医師に連絡すること。(P305+P310) 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
廃棄	皮膚刺激が生じた場合、医師の診察、手当てを受けること。(P332+P313) 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合は洗濯をすること。(P362+P364) 内容物や容器を、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)
他の危険有害性 重要な徴候及び想定される非常 事態の概要	
<b>3. 組成及び成分情報</b>	
化学物質・混合物の区別	単一製品
化学名又は一般名	デカン酸
CAS番号	334-48-5
濃度又は濃度範囲	100%
化学式	C10H20O2
化審法官報公示番号	(2)-608
安衛法官報公示番号	
分類に寄与する不純物及び安定化添加物	データなし

以下、該当する単一成分のSDSを記載する。

#### 4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	多量の水と石鹼で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
眼に入った場合	汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。 直ちに医師に連絡すること。 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	眼と皮膚を中等度から重度に刺激する。
応急措置をする者の保護	データなし
医師に対する特別な注意事項	データなし

#### 5. 火災時の措置

適切な消火剤	水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類。
使ってはならない消火剤	棒状注水。
特有の危険有害性	火災によって刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。 熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。 激しく加熱すると燃焼する。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

#### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 全ての着火源を取除く。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。危険でなければ漏れを止める。 漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。
二次災害の防止策	全ての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。

#### 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取扱注意事項	周辺での高温物、火花、火気の使用を禁止する。 眼、皮膚との接触、飲み込まないこと。 環境への放出を避けること。
接触回避 衛生対策	「10. 安定性及び反応性」を参照。 取扱い後はよく眼と手を洗うこと。
保管	
安全な保管条件	熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。禁煙。 冷所、換気の良い場所で保管すること。 容器を密閉して保管すること。
安全な容器包装材料	包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れる。

#### 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	未設定
許容濃度(産衛学会)	未設定
許容濃度(ACGIH)	未設定
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
保護具	
呼吸用保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼、顔面の保護具	適切な保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣、保護面を着用すること。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態	結晶
色	白色
臭い	不快臭
融点/凝固点	31.4℃
沸点又は初留点及び沸騰範囲	270℃
可燃性	データなし
爆発下限界及び上限界/可燃限界	0.8~5.5vol.%(推定値)
引火点	> 112℃(密閉式)
自然発火点	193℃
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	水:0.015g/100g(20℃)ベンゼン、シクロヘキサン、エタノール、イソプロピルアルコール、アセトン、氷酢酸、メタノール、酢酸エチルに可溶。
n-オクタノール/水分分配係数(log値)	log Pow = 4.09
蒸気圧	0.00003mmHg(25℃)(外挿値)
密度及び/又は相対密度	0.8782(50.4℃)
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性	強酸化剤と反応する。
化学的安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	加熱すると分解する。
避けるべき条件	加熱、混触危険物質との接触。
混触危険物質	塩素酸ナトリウム、過塩素酸ナトリウム、過酸化水素、硝酸アンモニウム、硝酸ナトリウムなどの強酸化剤。
使用、保管、加熱の結果生じる危険有害な分解生成物	データなし
その他	

## 11. 有害性情報

急性毒性	
経口	ラットの経口投与試験のLD50 = 3,301mg/kg(JECFA(1998))は国連GHS急性毒性区分5に該当するが、国内では不採用区分につき区分外とした。
経皮	ウサギの経皮投与試験のLD50 = >5,000mg/kg(PATTY 5th(2001))から区分外とした。
吸入(蒸気)	ラットの8時間飽和蒸気ばく露で死亡はみられない(PATTY 5th(2001))と記述されている。飽和蒸気圧濃度(25℃)0.0003mg/Lから、LC50 = >0.0003mg/Lと推定される。この値は蒸気基準の区分1の範囲にあり、区分を特定できないので分類できない。

皮膚腐食性／刺激性	ウサギの4-24時間投与試験でmode rately to severely irritating (IUCLID (2000))と記述されているので区分2とした。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	ウサギで角膜混濁、結膜や虹彩の強い損傷がみられる (IUCLID (2000))、また、ウサギでレベル9 (最高は10) の損傷、72時間後の角膜損傷はレベル10になる (HSDB (2002))と記述されているので区分1としデータがないので分類できない。
呼吸器感受性	ヒトに対するパッチテストで皮膚感受性はみられない (PATTY 5th (2001)、IUCLID (2000))、20匹のモルモットのBuehler試験で皮膚感受性を示さない (IUCLID (2000))との記述から区分外とした。
皮膚感受性	in vitroの細菌を用いたAmes試験で陰性 (PATTY 5th (2001)、NTPDB Acc. September (2008))と記述されているが、In vivo試験のデータがないので分類できない。
生殖細胞変異原性	ラットの経口投与試験において発がん性の証拠は報告されていない (PATTY 5th (2001))と記述されており、主要な国際的評価機関による評価もなされていないので分類できない。
発がん性	データの不足のため分類できない。
生殖毒性	ラットの経口投与試験で過度の流涎や下痢、さらに高投与量 (10,000mg/kg) で神経筋制御の減退、中枢神経系の抑制がみられる (IUCLID (2000))と記述されているが、区分2のガイダンス値を超える投与量での症状であり、データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	ラットの150日間経口投与試験において、胃への影響はみられない (PATTY 5th (2001))、また、イヌを用いた102日間経口投与試験において、内臓重量、肝臓、腎臓への影響はみられない (IUCLID (2000))と記述されている。いずれも区分2のガイダンス値の範囲外の投与量で影響がみられていないので、区分外とした。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	データなし
誤えん有害性	データなし

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期(急性)	藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata) の72時間EC50 = 12mg/L (環境庁生態影響試験 (1998)) から区分3とした。
水生環境有害性 長期(慢性)	急性毒性区分3であり、急速分解性に関するデータがなく、生物蓄積性がある (logPow = 4.09 (PHYSPROPDB (2008))) と推定されることから区分3とした。
生態毒性	データなし
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	本品を廃棄する際には、国、都道府県並びにその地方の法規、条例に従うこと。廃棄処理中に危険が及ばないように十分注意すること。
汚染容器及び包装	関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制	
海上規制情報	該当しない。
UN No.	
Proper Shipping Name	
Class	
Sub Risk	
Packing Group	
Marine Pollutant	Not Applicable
Transport in bulk according to MARPOL 73/78, Annex II, and the IBC code.	Not Applicable
航空規制情報	該当しない。
UN No.	
Proper Shipping Name	

Class	
Sub Risk	
Packing Group	
国内規制	
陸上規制情報	該当しない。
海上規制情報	該当しない。
国連番号	
品名	
国連分類	
副次危険	
容器等級	
海洋汚染物質	非該当
MARPOL 73/78 附属書II 及び	非該当
IBCコードによるばら積み輸送	
される液体物質	
航空規制情報	該当しない。
国連番号	
品名	
国連分類	
副次危険	
等級	
特別の安全対策	
緊急時応急措置指針番号	なし

15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1)【256 デカン酸】 デカン酸 1質量%以上を含有する製品
--------------------------	---

16. その他の情報

参考文献	経済産業省 事業者向けGHS分類ガイダンス 日本ケミカルデータベース ezCRIC 職場のあんぜんサイト GHS対応モデルラベル・モデルSDS情報 神奈川県環境科学センター 化学物質安全情報提供システム(kis-net) 化学物質総合情報提供システム(CHRIP)
------	--

その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆危険・有害性の評価は必ずしも十分でないので、取扱いには十分注意して下さい。</li> <li>◆本データシートは情報を提供するもので、記載内容を保証するものではありません。</li> <li>◆表記の試験研究用試薬以外に本データシートを適用しないで下さい。</li> <li>◆輸送中、保管中、廃棄後も含めて、内容物や容器が、製品知識を有しない者の手に触れぬよう、厳重に注意して下さい。</li> </ul>
-----	--